

ひがし労 東京

地本大会特集No.2-2

来賓 本部鈴木書記長挨拶



【一点目】、新型コロナウイルスの感染から組合

員・家族を守り抜こう！ ここまで感染拡大を広がってしまった原因として、第一に安倍政権による後手に回った対策、そして経済活動を最優先したことにあります。そのことにより、感染経路の分からない市中感染が広がったことあります。新型コロナウイルス感染拡大による雇用問題が深刻化しました。5月だけでも倒産件数は244件に上り、完全失業率は2.6%になり、この1年で13万人増加したことになります。一方、マスクの状況にも怒りを感じます。外出自粛要請を連日報道し、社会全体で自粛ムードが醸成されてきました。本部は、4つの重点課題を提起し、「正しく恐れる」を合言葉に、感染恐怖に縛られるのではなく、立ち向かう意識へと変革してきました。その意識の変革こそが、会社や権力に対する怒りに変わり、闘う柱へと確立してきました。引き続き4つの重点課題を徹底し、集団免疫を身に付け、感染から組合員・家族を守り抜きます。

【二点目】、コロナ禍で職場と仕事と生活を守り、安全と健康を担保しよう！ 会社は、新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言に伴う外出自粛を受けて、様々な効率化施策を矢継ぎ早に提案されています。これがJR東日本会社の本質であります。営業職場ではみどりの窓口の営業時間の短縮により出札業務の縮小、券売機締切業務の隔日化などによる作業ダイヤの変更を通じて、担務変更の見習いや自己啓発としての時間に活用させています。乗務員による感染発覚を想定した場合の輸送体系の維持と称し、企画部門と現業機関の兼務発令を通じた労働の複雑化が行われています。その反面、検修・工務職場においては業務運営に必要な最小限の出面以外に対して自宅待機を指示しています。2019年度期末決算は、単体・

連結共に営業収益は8期ぶりの減収、すべての利益が減益。会社は当面の経営方針として、ポスト・コロナ社会の不可逆的な構造変化への対応を打ち出しました。コロナ禍における厳しい経営状況を大々的に煽ることを通じて経費削減を図り、「ヒトからモノへの置き換え」、生み出された余剰人員をAI・IoT指示に従わせるための労働環境へと創り上げようとしています。その一例として、5月25日からJR東日本とNECが共同で運行管理の高度化に向けたクラウド・AI技術を活用した業務支援システムを構築し、東京総合指令室での稼働を開始しました。導入以降の異常時の列車の打ち切りや出入区判断、折り返し計画など、スピード感が増しました。AIが導き出す運行計画は、極限的に効率的なものを打ち出していきます。そこには、食事や生理現象、休憩時間など考えることはありません。「ヒトからモノへの置き換え」、デジタルトランスフォーメーションの本質です。人は便利さや快適さを追求し、その代償として、人としての尊厳、人間としての自由、最後には人間労働そのものを失ってしまうことに繋がってしまう危険性があります。

そして、6月9日に「休業指示に係る就業規則等の改正について」を提案してきました。感染症防止対策の一環として自宅待機を休業の指示に切り替えることで、当面の経営方針で述べられている「固定費割合の高い鉄道事業の経営体質を見直す」コスト削減、特に基本給への食い込みを狙って人件費の抑制を図ろうとしています。現実問題として一時金ではなく基本給まで減らされようとしています。私たちは、この就業規則改正に怒りを込めて、社友会、未加入者に「このままでいいのか！」とオルグしていかなくてはなりません。

【三つ目】組織の強化・拡大を通じて、組合

員・家族の幸せを勝ち取るため、JR労働運動を創造しよう！ 過半数代表者選挙やグループ会社並びに関連会社等における「労働協約・協定」の締結を求める署名、新型コロナウイルス4つの重点課題を通じて、組織拡大を図ってきました。前大会以降の拡大は、未加入者との人間関係だけでは拡大に繋げることは不可能でした。人間関係以上に私たちのオルグ、真実を伝え、思いをぶつけあうことで、相手を変革しなければ拡大には結びつかずはたはらずです。

本部大会の発言でもありました、出向などにより別会社に勤めひがし労に加入したい仲間がいる事実を踏まえて、JRひがし労とその運動に共鳴する労働者の加入を目指してJR労働運動の前進を勝ち取るため、規約諸規則の改正を目指していきます。JR以外で働く労働者の結集を図っていくことが、キーポイントです。暗雲立ち込める未来に、真面目にたたかいを推し進めるひがし労の運動を広げていくこと、その真面目さを通じて労働者の結集を図ることが重要です。9月5日の臨時大会に、規約諸規則の改正や補正予算、人事体制の変更を、提起します。積極的な議論をお願い致します。

最後に、この2年間、様々運動を提起してきました。大事なはその方針を地本で議論し豊富化した運動づくりが重要なのです。その運動を、一つ一つ振り返り総括していくべきだと思います。私たちは勝つために闘っています。勝つために悩み苦しんでいます。勝つために真面目に運動を推し進めています。怒りを力に変える、負けないために知恵を出す、その知恵を、運動を皆で決めたら皆でたたかう。負けないために、勝つために、最後にJRひがし労運動を皆で推し進めていこうではありませんか！